



宇都宮ロータリークラブ会報

Rotary



宇都宮ロータリークラブ 会長 岡崎善胤・幹事 熊本勇治 ID#13888

テーマ「ロータリーは何をするか？」各々のロータリーの価値を行動しましょう！

国際ロータリー会長 バリー・ラシン テーマ BE THE INSPIRATION

国際ロータリー第2550地区 2018-19年度ガバナー 伊東永峯

テーマ「ポールを語ろう…それは一人のインスピレーションから始まった」

例会日 火曜日 12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町 5-12

事務所 宇都宮市江野町 1-12 栃木実業ビル2F Tel 028-666-0555

E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2019年) 令和元年5月21日 No 40 2018~2019年度 (第3289回会報)

会員数 102名 出席者数 58名 出席率 65.9%

ビジター紹介 (親睦活動委員会 明賀一博委員長)

野澤巧様 齊藤敏彦様 大堀文雄様 大越正和様 (真岡ロータリークラブ)

大橋渡様 栗又尚美様 (ツール・ド・とちぎの会)

会長挨拶 (岡崎善胤会長)

本日も例会にお集まり頂き有り難うございます。今日は朝から大雨で、被害が油断できない状態です。会場へ来る時、田川の水位が非常に上がっていました。午後には雨が上がるようですが、ご注意をお願い致します。

本日は、真岡ロータリークラブの皆様、ツール・ド・とちぎの会の皆様におこし頂いております。どうぞ、宜しくお願い致します。10時45分から次年度理事予定者の会議が行われました。詳細につきましては、町田会長エレクトからお話があると思います。次年度のRIの会長は、マーク・ダニエル・マローニーさんです。テーマは「ロータリーは世界をつなぐ」です。当2550地区のガバナーは、川嶋幸雄さんです。次年度の宇都宮ロータリークラブは町田卓大会長、「ロータリーを成長させよう」と言うテーマで、次年度を運営していくというお話がありました。本日も宜しくお願い致します。

幹事報告 (熊本勇治幹事)

今年度の報告書作成にあたり、6月中に各委員長さんは報告書をまとめて提出をして下さい。又次年度への引継ぎを行って頂きたいと思っております。次年度のガバナー公式訪問が、9月17日に予定されておりますので、各委員会の報告書又方針の提出をお願い致します。

真岡ロータリークラブの皆様

宇都宮ロータリークラブの皆様、こんにちは。ご紹介を頂きました真岡ロータリークラブ61代目の会長



長を7月から拝命いたします野澤です。どうぞ、宜しくお願い致します。幹事の齊藤敏彦さん、会長ノミニーの大堀文雄さん、SAAの大越正和さんです。次年度を代表いたしまして、本日4名でお伺い致しました。真岡ロータリークラブは61年前、宇都宮ロータリークラブの皆さんに御世話になりました。昨年、60年の誕生日を迎える事が出来ました。ひとえに宇都宮ロータリークラブの皆さんのおかげと深く感謝を申し上げます。昨年の11月11日

創立60周年記念には、岡崎会長さん熊本幹事さんにご臨席を賜りまして盛大に出来ました事深く感謝申し上げます。本当に有り難うございました。本日は、私共が代表いたしまして記念誌を届けに参りました。最後になりますが、宇都宮ロータリークラブの益々のご繁栄をご祈念申し上げます。どうぞ、今後とも宜しくお願い致します。

ニコニコボックス委員会（増田和浩委員）

結 婚 祝：長谷部周彦会員 谷田部幸男会員

快 出 席 祝：佐々木英典会員

奥様誕生祝：青木栄久会員

青木栄久会員：4月26日付、栃木県砕石工業協同組合理事長を卒業いたしました。

並びに県知事より表彰を頂きました。

真岡ロータリークラブ（野澤巧様 齋藤敏彦様 大堀文雄様 大越正和様）：

本日は、次年度4名でご挨拶に参りました。大変御世話になります。

プログラム紹介（プログラム委員会 岸本卓也委員長）

本日の卓話はトヨタカローラ栃木(株)代表取締役社長の喜谷辰夫様にお願いします。平成5年、宇都宮ロータリークラブに入会されました。2012-2013年度の会長を務められました。他、重要な役職もされ当クラブを支えて下さっております。また栃木県経済同友会の幹事、宇都宮商工会議所の副会頭をお務めになっておられます。又地域スポーツ振興にも努められております。本日は「ツール・ド・とちぎ 第3回大会を終えて」という演題でお話をいただきます。宜しくお願い致します。

卓話 「ツール・ド・とちぎ 第3回大会を終えて」

トヨタカローラ栃木(株)代表取締役社長

NPO 法人 ツール・ド・とちぎの会 理事長 喜谷辰夫会員

皆さん、こんにちは。岸本委員長から「お前、卓話をやれ」と言われまして「ツール・ド・とちぎ」の話を致します。今「NPO 法人ツール・ド・とちぎの会」の理事長をさせて頂いております。ツール・ド・とちぎも今年の3月で、第3回目を迎えました。年を追うごとに観客数も増え、認知もされてきています。パワーポイントを準備致しましたので、これを見ながらお話をさせて頂きます。



これは、今年第3回大会第3ステージ的那須烏山スタート直後の写真です。これは、足利ゴール地点の様子です。福田知事・足利市長・栃木市長にも観戦して頂いております。栃木県をあげてのイベントです。

何故、栃木で自転車ロードレースをやるようになったのかと言いますと、中野浩一さんという競輪選手が、自転車の世界選手権個人スプリントで1977年から1986年まで10連覇を成し遂げました。自転車の世界選手権で10連覇を成し遂げることは大変な事です。世界チャンピオンを10年間続けたという事を記念して、自転車世界選手権を1990年に日本で開催する事になりました。トラック競技は前橋市で行い、ロードレースを宇都宮市で行いました。前橋市にドーム前橋という競輪場が作られました。その時宇都宮では森林公園のコースが整備され、ロードレースを行いました。1992年から世界選手権のレガシーとして、ジャパンカップが始まりました。今年で28回目です。最初の頃の観客数は、余り多くありませんでした。世界選手権を行った頃から、宇都宮ロードサイクルフェスタの大会、サイクリングリゾートイン栃木と云うイベントがありました。私も当時、この様な大会に参加しました。鬼怒川から鶏頂山を登ったり、今市から霧降を登ったりと大会に出場した記憶があります。その後、2008年に現社長の柿沼さんと廣瀬さんが中心となって、宇都宮ブリッツェンを立ち上げました。2009年からサイクルピクニックというイベントが開始されました。ジャパンカップも最初は森林公園だけで行っていたのですが、2010年から、街中の大通りでクリテリウムを開催する流れが出来、自転車の認知が広がりました。2011年3月東日本大震災の時、エネルギー問題でガソリンが手に入りづらい事が有りましてバイクブームに火が付き、一般の人達も自転車に多く乗るようになりました。

最近、多くの所でサイクリイベントを行っています。ツール・ド・フランスは、町から町へ走るレースで、フランス全土を3週間かけてまわるレースです。ロードレースファンからすると「何故、日本ではラインレースが無いのだろう」と、又県のいくつかの委員会でもこの様な話が出ていたそうです。その様な時、県議の人が「ツール・ド・とちぎと云うラインレースを開催しないのか。」という質問がありました。県としては「主体的に動かないが、民間でやる人がいれば支援する」と云う様な話があり、NPO法人を立ち上げました。自転車のロードレースは、公道を閉鎖してレースをするので、自治体の協力が無いと出来ません。県の支援を得るために、色々な関係者に交渉をしながら担当を付けて頂きました。日本自転車競技連盟の協力も得ました。国際レースの運営をするのは、今の日本では自転車競技連盟の人達でないと恐らく出来ない状況です。競輪の収益を色々な事業に支援するという、競輪の補助金を獲得するためにも色々な事もいたしました。そして運営をするためには、スポンサーの獲得、事務局の立上げが必要です。最初はNPO法人の理事になって頂いている皆さんに協力して頂き、事務局の運営をスタートさせました。

「ツール・ド・とちぎ」は、県内各地景色の良いところをまわってレースをしています。「ツール・ド・とちぎ」のねらいとしまして、栃木の地方創生を推進するという事で県内全市町を通るUCI公認のサイクルロードレースという事です。「自転車先進県とちぎ」を発信しブランドイメージをアップさせるために、ジャパンカップという大きなレースが秋にあります、「ツール・ド・とちぎ」は春先に行い、栃木の自転車先進県を更に強固なものにしたいという主旨もあります。県内各地をまわり、歴史や文化・食等を活用した新たな魅力の創造、観光客誘致による地域の活性化もねらいの一つです。健康づくり推進という事で、県内でも自転車に乗っている人がとても多くなりました。健康の為に、皆さんもぜひ興味がありましたら一緒に自転車に乗りませんか。また各地の多くの方のご協力を頂かないと出来ないイベントですので、参加する事によって郷土愛の醸成ができるのも一つです。盛り上がりの為、各レースのスタート地点で色々なプレゼンをしています。これは、トラックの荷台をステージにして色々な事を紹介しています。

これは、第1回目のコース図です。最初の年は、3日間1本ずつラインレースをしておりました。1日目は、日光をスタートし足利にゴールをするコース。2日目は、茂木町をスタートし那珂川に沿って北上し那須にゴールするコース。3日目は、矢板をスタートし県民の森を通過して宇都宮のまわりを通り清原工業団地にゴールするコース。トータルで321キロのレースでした。この第1回目の大会は寒い日があり選手は寒い思いをしましたが、無事成功したレースでした。山の峠に山岳賞ポイントが設けられ、ポイントを獲得すると表彰されます。

第2回目の大会は、1日目は渡良瀬遊水池の湖のまわりを回る個人タイムトライアルを行いました。2日目は、小山をスタートし日光へゴールするコース。3日目は、那須をスタートし那珂川沿いを南下して真岡市の井頭公園にゴールをするコースでした。この写真は、タイムトライアルのスタートです。これは、那珂川の橋を渡っている写真です。これは、小山から日光だいや川公園のゴールに向け杉並木を走っている写真です。これは、益子の街中の坂を走っている写真です。観光地を通過して、地域をアピールします。

この大会の特徴の1つとして、インターネットでライブ配信をしています。ラインレースは一瞬で目の前を通過してしまいますので、とちぎテレビさんに協力をして頂きインターネットで配信をして頂いております。又その日の夜、ダイジェスト番組を放送して頂き売上に協力をして頂いております。

第3回目は試行錯誤をしてやり方を変えました。1日目は、真岡市の井頭公園の中の道路を使ってのタイムトライアルです。2日目は、矢板市での周回コースでした。3日目は、那須烏山駅前をスタートし宇都宮の北側を通り足利にゴールするコースでした。第2回目以降、回を重ねるごとに沿道の観客が増えているように思います。この写真は中間スプリントの様子です。1番左側の赤いジャージのブリッツェン

の鈴木龍さんです。これは、通過地点でイベントをして頂き、盛り上げて協力頂いている所です。これは矢板の周回レースで、比較的幅の狭い農道を集団が走っている様子です。これはメイン集団から逃げている選手達にバイクに乗ったオフィシャルが、後ろの集団とのタイム差をボードに書いて教えている様子です。

第2回目・第3回目はプロのレースだけでは少し盛り上がり欠けるという事で、アマチュアレースも同時に開催出来ないかと考えました。タイムトライアルの所なら支障はないだろうと、アマチュアの方も参加出来るタイムトライアル大会を同時に開催し、プロの選手とのタイムの比較が出来るイベントを行いました。第1回目に比べると参加者が増えてきたと思います。しかし最初は参加者が少なく、学生連盟に学生の参加をお願いして参加人数を多くした事が有ります。又一般の人達には、サイクルフォトラリーでコースでまわった場所で自転車と映った写真をインスタグラムに投稿して頂き、それを応募して抽選で賞品が当たると云う盛り上げも行っております。

三回の比較をしますと、観客数ですが、第1回目は66,000人、第2回目は71,900人、第3回目は79,000人です。経済効果では、第1回目10億9000万円、第2回目11億1000万円、第3回目は結果が出ておりませんが12億円位だと思います。実質、開催の為の予算は、第1回目1億5000万円、第2回目1億4000万円、第3回目は1億4000万円弱位で推移しております。協力して頂いたスタッフの人数ですが、第1回目は3,500名、第2回目は2,300名、第3回目は2,250名です。出来るだけ負担を少なくして開催出来る様にしていきますが、ラインレースが多くなると人数をもう少し増やさざるをえず、ボランティアが必要となります。

「ツール・ド・とちぎ」の特徴はラインレースです。これが関東圏で実現できた事は関係者からしますと驚きの事です。「ツール・ド・とちぎ」は、2年をかけて全25市町を競技の舞台とするのが特徴です。最初から国際自転車競技連合の公認が取れているという事は、大変珍しい事らしいです。UCIの海外から来ている方には、「きちんと出来ている大会だ」と評価を頂いております。オール栃木で実施し、官・民・行政・企業・競輪の補助金といった栃木全体で実施出来ております。県内全域を巻き込んだイベントは、中々出来るものでは有りません。その様な中で実現できている独特なイベントと思っております。ライブでインターネット中継を行い、世界で見られるレースですので是非お見知りおき頂ければと思います。第4回目も具体的に準備を進めております。来年の3月20日から22日です。金曜日が祝日ということで観客数もさらに増えることと思っております。レースの形態は、第3回目と同じような感じですが、第4回目までは具体的に決まっておりますが、今後どの様に進めていくかという事を関係者の中で議論している最中です。資金の問題や推進体制を強化していかないと難しいです。また2022年には栃木で国体が開催され、スポンサーとの課題等色々有ります。

これからも「ツール・ド・とちぎ」を進めていきたいと思っておりますので更なるご協力をお願い致しまして、私の話を終わらせて頂きます。御清聴を有り難うございました。

=当日の食事=



チキン南蛮
小鉢 (ポテトサラダ) 香の物
玉子スープ ご飯

【5月卓話】

5月21日（火）「ツール・ド・とちぎ 第3回を終えて」

喜谷辰夫会員

トヨタカローラ栃木(株) 代表取締役社長

5月28日（火）「とちぎ 結婚事情」 ～結婚支援最前線から見る現状と課題～

高岡耕子様

とちぎ結婚支援センター 相談役

会報担当：菅谷 隆臣 会員

画像担当：三井 勝滋 会員